

授業科目名・形態	助産診断・技術学Ⅱ 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	工藤 優子・日沼ゆかり	実務経験の有無	有	開講期	3年後期

【授業の主題】

助産診断Ⅰで学習した知識を基に、妊娠期・産褥期・新生児期にある対象者を総合的に捉え、助産診断・助産過程を展開するための健康診査・保健指導について学習する。また、母乳育児をはじめとした育児支援技術や、乳幼児の健康診査、地域での継続支援について学習する。また、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と意義を基盤に、女性のライフスタイル各期の特徴や発達課題から対象者を理解し、女性が生涯にわたって健康な生活を送ることができるような健康教育・援助方法について学習する。

【到達目標】

1. 妊娠期・産褥期・新生児期の助産過程を理解できる
2. 妊娠期・産褥期・新生児期の助産診断に必要な専門的技術を学習し、実践できる
3. 妊娠・産褥・新生児期の助産ケア・保健指導の実際を理解し、実践できる
4. 母乳育児支援、育児支援ができる。
5. 女性が生涯にわたって健康である支援を考えることができる。

【授業計画・内容】

第1回	妊娠期のフィジカルアセスメントと助産過程	(工藤)
第2回	妊娠期の助産ケア・保健指導	(工藤)
第3回	産褥期のフィジカルアセスメントと助産過程	(工藤)
第4回	産褥期の助産ケア・保健指導	(工藤)
第5回	新生児期のフィジカルアセスメントと助産過程	(工藤)
第6回	新生児期の助産ケア	(工藤)
第7回	母乳育児支援の実際	(工藤)
第8回	妊娠期における保健指導の実際①	(工藤)
第9回	妊娠期における保健指導の実際②	(工藤)
第10回	出産準備教室	(工藤)
第11回	産褥期における保健指導の実際	(工藤)
第12回	受胎調節実地指導員の役割	(工藤)
第13回	地域における助産師活動の実践①	(日沼)
第14回	地域における助産師活動の実践②	(日沼)
第15回	更年期・老年期の特徴と健康教育	(工藤)

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

講義内容をふまえ、関連する教科書の範囲を読んでおくこと。講義終了後は授業内容をまとめ復習をすること。

【主な関連する科目】

基礎助産学、助産診断・技術学Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ

【教科書等】

助産学講座 5・6・7・8 (医学書院)

【参考文献】

随時資料配付

【成績評価方法】

筆記試験 70%、演習・レポート 30%により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

特定機能病院において助産師として勤務しハイリスクの妊産褥婦、新生児のケアを行ってきた。臨床での根拠のある看護実践の大切さを伝えたいと思う。

【学生へのメッセージ】

周産期にある女性と新生児をケアするための実践的な講義です。臨床場面をイメージし、なぜそのようにするのかなど根拠を考えながら学習しましょう。